

事業所の概要表

( 令和4年 2月 1日現在)

事業所名	グループホーム柿の里					
法人名	株式会社 穂波					
所在地	愛媛県宇和島市柿原甲138番地1					
電話番号	0895-23-5858					
FAX番号	0895-23-5868					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 22 年 4 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 2 ) 階建て ( 1,2 ) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 ( 男性 3 人 女性 14 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	5 名	要介護2	6 名
	要介護3	4 名	要介護4	1 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	7 人	10年以上	8 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 8 人			
	その他 ( )					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	清水循環器内科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 3 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	27,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,000 円 ( 朝食: 円 昼食: 円 )
	おやつ:	円 ( 夕食: 円 )
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他の費用	・ 水道光熱費	24,000 円
	・	円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年3月10日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12	(依頼数) 17
地域アンケート	(回答数) 8	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3890300076
事業所名	グループホーム 柿の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	前田 祐子
自己評価作成日	令和4年 2月 14日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b> いつも笑顔で生き生きと自分らしく</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> ①【介護計画に沿ったケアの実践、結果の記録をする】 個人の記録用紙を見直し、介護計画に沿って実践ができたか記録に残している。 ②【利用者一人ひとりについての気づきや工夫、アイデア等を分かりやすく個別に記録をする。】 個別ノートを作っていたが、介助や業務に専念できたり確実な情報を伝える為、伝達ノートに記入して職員間で共有し実践できる様にした。 ③【会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービスの向上に活かしその状況や結果について推進会議時に報告する】 感染予防の為、ほとんど推進会議が開催できず、書面にて活動報告し、その返信にて意見やアドバイスを頂いている。 意見、アドバイスに対する考えは行政に書面で報告をしている。</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 宇和島市の取り組みで、近くの職業訓練校で、認知症サポーター養成講座を他事業所と協力して実施することを継続している。 自宅で畑仕事をしていただいている利用者は、事業所の畑で作業をしてくれており、自宅に農具を取り戻るような時には職員が付き添っている。 クリスマス会等には、職員が歌ったり踊ったり利用者を楽しませている。秋祭りの際には、職員が神輿を手作りして、利用者は法被を着て雰囲気を楽しむようにした。利用者や職員が、学生服やセーラー服を着て学生時代の懐かしい歌を歌うような場面をつくっている。100歳の誕生日には、折り紙のたくさん入ったくす玉を割ってお祝いをした。</p>
--	--	--

**評価結果表**

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人、家族のご意向をお伺いしている。普段の会話の中で思いを聞き把握に努めている。	◎		○	入居時に家族等から聞き取り、アセスメントシートに本人の「私の願い」等の情報を記入している。その後、職員が情報を得たら、日付をつけて追記をしている。介護記録に利用者の言葉を記入し、必要な情報については、申し送りでも共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の生活の中で本人の表情や行動から検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族等からの情報収集に努めている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人の介護記録に具体的な会話内容や行動等を記録し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みや決めつけをしないように、本人の普段の行動や言動から職員間で意見を出し合い思いをくみとる様努めている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時や面会時に話を伺っている。普段の会話の中からも本人から聞き出せる様努めている。				入居時、家族に聞き取り、基本情報シートに、本人の生活歴、趣味、好きなこと等を記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の場面から、有する力等の把握に努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で変化を見逃さない様にし記録に残し、把握に努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	毎日の申し送りやミーティング等で話し合い把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一日を通して記録を残し、申し送り時で変化や違いについて引継ぎできるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	把握している情報をもとに、職員間で話し合い検討している。				ケアマネジャーが、家族に意向を聞いたり、職員から情報を集めたりして検討している。さらに、チームで検討できるようなくみを工夫してほしい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	一人ひとりに必要な支援とは何か申し送り時やユニット会議において検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	一人ひとりの課題を明確にし、改善するように努めている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いをくみとりながら、望む内容になるよう努めている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	問題点を話し合い共有している。意見やアイデアを取り入れるよう作成している。	◎			ケアマネジャーが、家族の意向と職員からの情報をもとにして計画を作成している。さらに、チームで計画を作成できるようなくみを工夫してほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活スタイルが変わることなく穏やかに生活できるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ等の対策により、協力体制をとる事は、ほとんどなかった。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を確認できるように毎日の記録にチェック欄を設けている。			◎	介護計画作成時には、回覧してから個人記録ファイルに綴じている。介護記録の上部に、計画の短期目標とサービス内容の具体的な支援を示している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録に記録し出来ていない事は、会議等で話し合っている。				サービス内容の具体的な支援に番号を振っており、介護記録には、その番号と実践した事を文章で記入している。さらに、状況確認がしやすいような記入方法に工夫してみようか。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	介護記録にできるだけ残すようにしている。				介護記録に、実践した事とともに、利用者の言葉を記入している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員間で、話し合い共有している。				申し送り時に口頭で話し合うが、さらに個別に記録して支援に活かしてほしい。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に見直しをしている			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、6ヶ月に1回、見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	申し送り等の参加や記録を確認し、現状の確認を行っている。			△	2ヶ月に1回のユニット会時に、介護計画の内容にこだわらず、利用者全員について現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合は家族等に連絡をとり、計画を見直し作成している。			○	骨折等、身体状態に変化があれば計画を見直している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	課題や緊急案件がある場合にはその都度話し合いをしている。			○	2ヶ月に1回、ユニット会を行って議事録を作成している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いつでも意見交換ができるよう工夫している。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できる様工夫している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議時の記録を残している。口頭でも伝えている			◎	出欠にかかわらず、すべての職員が議事録を確認してサインをするしくみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日の申し送り時や伝達ノートで共有している。			○	伝達ノートで情報を共有している。内容を確認した職員はサインをするしくみをつくっており、サインが揃っていないかどうかは、管理者等がチェックしている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時や伝達ノートで情報を伝え共有している。	○				
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日、利用者に声掛けを行いできる事を実践できるよう努めている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服の選択ができるようにしている			◎		
		c	利用者が思いや希望をさせるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の思いや希望に合わせた暮らしができる様に努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて生活できるように努めている。					
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話の中で引きだしている。			◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	日々の生活の中で利用者の表情や行動を把握しコミュニケーションを取りながら、意向に添った暮らしができるように努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や会議等で話し合い、言葉のかけ方や態度について意識をもって行動できるよう努めている	◎	◎	○	職員の気になるような言葉遣いや態度がみられれば、代表者(施設長)や事務長、管理者等が注意をしている。また、ユニット会時に接遇等について話し合ったりしている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	声掛けの言葉使いには気を付けて接し、配慮あるさりげない言葉かけをするよう努めている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者に配慮した声掛けをするよう努めている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際にはノックし、一言声をかけて入室するようにしている。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明をし理解、遵守している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に助けてもらったり、教えてもらった際は感謝の言葉を伝えている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	おやつ、食事、レクリエーションに参加する際やトイレ等でも声掛け合う場面がみられ、優しさや思いやりを実感している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまづき力発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員がいつも利用者同士の関係を把握しトラブルにならない様に努めている。			◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに対して原因を探り、利用者同士が穏やかに生活できるよう努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族とのコミュニケーションを密に行って人間関係について把握に努めている。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	今まで培ってきた地域への思いや馴染みの場所など、普段の会話などから把握することができる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で行けていない。家族、知人等の面会も少ないが、窓越しに短い時間の面会をし、関係を継続している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓越し、玄関での面会は行っている。施設内には入れていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	本人の希望で中庭を散歩したり、草花を見たりされている方がいる。季節によりドライブ等に出掛ける事もある。	○	△	○	昨年の春には、桜を見にドライブをした。夏には夜間に、宇和島城のオレンジライトアップ点灯式に参加した。 秋には、地域の懸崖菊を栽培しているお宅に見せてもらいに出かけた。  散歩したり、テラスで過ごしたり、畑作業をしたりできるよう支援している。 室内で過ごすことが多い時期でもあり、さらに、意識して戸外で気分転換できるような取り組みを増やしてほしい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出支援はコロナ禍で職員のみで行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	戸外に出る機会が少ない。施設内で日向ぼっこをしたりしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍で職員のみでの対応になるが、感染対策を充分にして、季節の花を見学に行ったりしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ミーティング等で各利用者担当職員の意見をもとに全員で話し合い支援の工夫をしている。				3時のおやつ後に、ガイヤ体操や歌に合わせて体を動かせる等の「筋力低下防止運動」を採用している。 また、個々のできることに合わせて計算、塗り絵、数字並べ等を提供している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの特徴を把握し改善するための話し合いをし、維持、向上が図れるよう努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員はできる事、出来そうな事は見守り、声掛けしながら一緒に行う事で向上に努めている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の趣味や習慣等を毎日の生活の中から把握している。				洗濯物たたみやカーテン閉め、畑作業等、利用者それぞれに役割を持てるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	レベルが進んでも、職員と一緒にしたり、できる事や、役割をつくるように努め取り組んでいる。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	コロナ禍で機会は少ないが地域での清掃や花いっぱい運動など参加し楽しんでいる。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者が着たい服を着てもらっている。選ぶ事ができない利用者には、その人らしい身だしなみや服装を選んでいる。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  美容師資格を有する職員が利用者の希望を聞きながらカットをしている。 衣服は、家族が用意しているが、職員が普段着ている服を参考にして買い物の代行をしたり、また、誕生日に事業所から洋服をプレゼントしたりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	入所時に自宅から持参してくる物以外に家族からの購入や、誕生日プレゼント等、好みで選べるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人が好みそうな服、着やすさなども考慮し選んでいる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じたその人らしい服装を考え、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れに対して、その都度さりげない声掛けをしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	カットが出来る職員がいる為、常に気を付けている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるよう工夫支援している。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者の一日の生活リズムの中で利用者に必要な食事量、調理方法等の必要性を理解している。				利用者の中には下膳やテーブル拭き等を行う人がいるが、その他は職員が行っている。  食事は事業所で手作りしており、地元の米やみそを使用している。利用者に馴染みのある山菜を採り入れたり、畑で採れた野菜を使ったりしている。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	できる事、片付け等を行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できる事を手伝ってもらうことで、利用者達成感を持ってもらうよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	日々の生活の中で、好き嫌いを把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の物の食材を取り入れ調整している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりに合わせ美味しそうな盛り付けができるよう努めている。必要に応じて食事形態の工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた物を使用している。困難な方には使いやすい物を選び使用している。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ禍の為一緒に食事はしていない。職員は見守りをし、介助が必要な方にはさりげなくサポートしている。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その日の献立を見やすいボードに記入している。台所に近いフロアなので音や匂いを感じてもらっている。	◎		評価困難	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者に合わせて量や、バランスを考慮し対応している。水分摂取は夜間も各部屋に置きいつでも補給できるようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	声掛けを工夫し、摂取しやすいタイミングを見て進めている。食事量の少ない方には、栄養補給飲料を摂取している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	バランスを考えたメニューを立てているが利用者が食べやすいように変更することもある。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	消毒はこまめに行っている。食材も新鮮なものを使用し食材に合わせた管理をしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を職員全員が理解している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケア時に確認しているが虫歯については、本人の訴えにより対応している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診時に説明を受けたり利用者に合わせて口腔ケアをしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来る所は利用者にして頂き、出来ないところは介助している。				
		e	利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛けしながら、出来る所はしてもらう。口腔内も都度チェックしている。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口腔ケア時のチェックや本人の訴えがあれば、迅速に歯科受診をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者の状態を把握し本人の気持ちも考慮し、紙パンツの使用には十分検討をし必要に応じて使用している。				必要に応じて申し送り時に、排泄状況を報告してパッドのサイズ等について検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘や下痢等の心配な利用者も多く、看護師に相談し指示を受けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	体調管理表を使いパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	基本トイレで用を足しているが紙パンツやパッドの使用することで安心して生活できている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者一人ひとりに合った誘導をしている。歩行や着脱の困難な利用者には介助をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンや兆候に合わせて誘導している。拒否がある利用者には声掛けを工夫している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	申し送り等において検討し使用が必要になった場合には家族とも話し合い各自にあったものを使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者一人ひとりの状態をみて昼、夜の使い分けをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	出来るだけ、体操や歩行運動等に参加してもらい、水分摂取も気を付けているが、困難な方は薬を服用している。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の声掛けをし利用者の気分に合わせ時間を調整している。長さや、温度等は希望に合わせている。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	話をしたり、また状態に合わせて一人の時間を過ごせる様見守りしながら支援している。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	自分でできる事はしてもらい、安全を考えながら安心して入浴できるよう支援している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	拒まれる方には、無理強いせず時間をずらしたり、翌日に交代する等の工夫をしている。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	バイタル測定と、その日の状態を見て入浴の判断をしている。入浴後は水分補給や休息をしてもらい状態を把握している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人ひとりのケース記録に記入し把握している。				1名の利用者は、どうしても眠れないような場合にのみ、頓服で入眠剤を使用するが、その他の利用者については、昼寝が長くないように気を付けたり、活動参加を促したりして安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない時にはその時の行動を観察し眠れない要因を探っている。職員間で話し合い日中の過ごし方も工夫している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に薬に頼らず日中の過ごし方を検討し、必要に応じて医師に相談している。	◎			
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人が気持ちよく休む事が出来る様に工夫している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人から希望があれば家族と連絡をとっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	できる事は見守り、困難な場合は一緒に行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人が希望された時は、電話できるよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのまませず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等があれば本人に渡している。読めない方には代読し聞いてもらうようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族への連絡の理解を得ている。家族からの電話を取り次いでいる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、基本は事務所で預かり必要に応じて渡すようにしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	感染対策の為、買い物に出掛ける事が困難になっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外出は困難であるが、本人が希望するものがあれば、職員が代わりに購入している。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	△	小銭等が入っている財布を持っている方もいる。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の希望を聞き、物品の購入の際は、家族に連絡し話し合い、購入するようにしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金出納帳のコピーを日に一度送付し、家族等に確認、同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出や受診の対応、検査等に家族が付き添えない場合など柔軟に支援を行っている。	◎		◎	家族は遠方の方が多く、病院の受診は事業所で支援している。自宅で畑仕事をしていた利用者は、事業所の畑で作業をしてくれており、自宅に農具を取りに戻るような時は職員が付き添っている。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花や植物、野菜等を見て頂ける様、心掛けています。玄関に入るとスタッフがすぐに対応し気軽に出入りが出来る様に努めている。	◎	○	○	玄関前には、スロープを設置している。玄関周りは、花を分け、植物を配置している。玄関を入ると直接居間につながっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない。暖かな共用空間等、家庭的な雰囲気をもとに考えられているかな等。)	○	季節の花や飾り物をし、壁には作品や利用者の活動写真を貼っている。	◎	◎	◎	現在は、感染防止対策のため、食事等は、テレビや外の景色が見える方向にむけて席をつくっている。直接テラスに出られる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快のない様に気を付けている。定期的な換気や掃除をしている。			◎	掃除が行き届き、気になる臭いはなかった。居間は、2方向の窓から自然光を採り入れて明るい空間になっている。みなが歌ったり、ゲームをしたりする声が聞こえていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じてもらうために、季節の花や、行事ごとの壁飾りをし、窓からは柿の木や野菜等の成長を観察できる。			◎	窓からの景色から季節感を感じられる。室内に花を飾ったり壁飾りをつくったりしている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	それぞれが気に入った場所で過ごされている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えない様に扉やカーテンで工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた物や好きな物を持ち込んで、使ってもらっている。	◎			評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	安全に移動できるように動線を工夫している。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室やトイレ等が分かりやすいように、動線には障害物がないよう安全に移動できるように気を付けている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろろき、織物道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングの本棚には、本や道具、パズル等いつでも手に取れるようにしている。				
29	鍵をかけたケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけたままの状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	必要な状況以外は、出入口の鍵を掛けない様になっている。	○	◎	○	玄関は施錠せず、チャイムやセンサーを設置している。2階の階段に扉を設置しており、一階に降りるような時は職員が付き添っている。弊害を理解するような機会は特に持っていないが、職員は「鍵をかけたことは、当たり前のこと」と認識している。
		b	鍵をかけた自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室に鍵はついていないので、自由に入出力できるが、何かあればその都度話し合っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけたままでも暮らすよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関は、施錠はせずセンサーを設置し工夫している。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個々のファイルに記載している。現病については、受診報告書にて確認できるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	体調管理表に記録しいつもと違う状態があれば報告し対応している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があれば看護師に報告しかかりつけ医等に相談できるような関係を築いている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望するかかりつけ医があれば診てもらい、特に希望がない場合には、施設のかかりつけ医に受診している。入所時に施設かかりつけ医を家族に説明している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診報告書に結果等を記載し職員間で情報の共有をしている。家族には受診後報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に利用者の情報提供書を提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院の連携室との連絡を密にし、状態を把握したり、退院前にはカンファレンスを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診時等には、病院関係者とコミュニケーションをとるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	施設の看護師にはこまめに気になる事を相談し、受診等につなげる様になっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間相談できる。必要であれば状態を見に来る体制も出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日、体調管理を行っている為日頃と違った事があればすぐに報告し早期発見、治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の処方箋等は薬の保管ボックスに入れてあり、いつでもみられるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬がないよう、3人の職員で確認している。服薬時、声に出して本人確認、曜日、時間等気を付けている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の利用者の状態を観察し変化があれば、看護士に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個々記録に記入している。状態の変化があれば家族や医師に報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に説明し話し合っている。状態変化の度に家族と話し合い意向を確認し方針を検討し共有している。				この一年間では支援の事例はない。入居時、家族に説明を行い、意向を確認している。状態変化時には、再度、説明を行い、医師、家族、職員で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医から家族に状況の説明をもらっている。職員には看護師から情報を伝え話し合っている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間でよく話し合い職員の不安な思いや力量を把握し看護師と相談しながらどこまでの支援ができるかを判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族に向け、できる事、出来ない事の説明を行い、十分に話し合いをし理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態をみながら変化があれば報告し連携を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心理的な負担がかからない様に話を聞いたりして配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内外での感染症の研修に参加し、話し合いをしたりして勉強をしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成し勉強会、話し合いもしている。マスク着用や手洗い、手指消毒等徹底している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染発生状況等の情報は常に入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市の情報、テレビ、かかりつけ医等からの情報収集に努め、随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は勤務に入る前に体温チェックをし記録に残している。玄関先に手指消毒を設置しマスクも徹底し清潔保持が出来る様になっている。来訪者には、玄関入口でアルコール消毒、検温を行って感染対策を万全にしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族とはこまめに連絡を取り出来るだけ行事等の参加をお願いしていたが、コロナの影響で面会ができないため、電話での対応となっている。				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	以前は心地よく過ごせるように対応していたが、現在はコロナ禍で施設内の面会や出入りは出来ていない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	以前は参加して頂ける様に早めに声をかけていたが、現在はコロナの感染防止のため面会制限をしている。	◎		○	感染症対策を徹底して、100歳のお祝いを戸外で行い、家族と一緒に過ごしたり、写真を撮ったりできる機会をつくった。
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月毎に柿の里より担当職員が普段の様子等を一筆書き送付している。	◎	◎	◎	状況や日用品の購入等、必要に応じて小まめに家族に相談や報告を行っている。柿の里より2ヶ月に1回送付している。また、利用者個々の担当職員が近況をまとめたものを同封している。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話等で生活状況を報告する際に知りたいことや不安に感じている事、要望等をお聞きしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	さまざまな家庭の事情により交流が困難な方がいるが、できるだけ理解して頂ける様に努めている。				
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	柿の里より2ヶ月毎に送付している。	○	○	○	柿の里より2ヶ月に1回送付して行事について報告している。運営推進会議の報告書は家族全員に送付し、職員の異動について報告している。設備改修、機器の導入の報告についても家族に報告できるような取り組みをすすめてほしい。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	遠方の家族が多く、現在はコロナ禍で交流ができない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時にリスクの説明を行っている。その後も必要に応じて対応策など話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的な連絡をとり、意見や要望等を伺うようにしている。			○	家族とのやり取りはケアマネジャーが窓口になっており、電話等で報告等する際に「何かありませんか」と聞いている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の際、重要事項の内容を丁寧に説明し理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居に至るまで利用者の状態に応じて一番よい方法をよく話し合い納得がいくように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	明確に内訳等を提示している。改定があれば変更理由を説明し同意を得ている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	自治会に加入し自治会長、近隣住民の方に推進会議に参加してもらい説明している。		◎		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナの影響で自治会や地域の活動の参加、近隣の幼稚園との交流の機会が減っている。		○	○	回覧板がまわってきている。地域の情報を得ており、自治会の掃除に利用者と一緒に参加したり、文化祭が開催されるか確認をして、作品作りをすすめている。敬老の日には、地元の保育園児がお花と手紙を持って来てくれた。自治会の花いっぱい活動に参加してプランターに花を植えて飾っている。
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議のメンバーを通じてお手玉の会や、幼稚園との交流がある。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍もあり、来られる機会は少ない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	機会が少ない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ボランティアでお手玉の会の方々との交流を以前はしていたが、現在は出来ていない。コロナが落ち着けば交流できるようにしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	コロナ禍でなかなか出来ないが、自治会での花いっぱい運動の参加をさせて頂き楽しく過ごすことができた。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	他施設、自治会、幼稚園との交流があるが現在イベントはほぼ中止になったりしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	市役所、他施設、近隣住民、ボランティアの方々、家族は遠方の方が多く参加者は少ない。	◎		○	この一年間では、7月に事業所で会議を行った。その他は、書面で会議を行っている。地域住民、家族、他事業所、行政等の参加がある。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	2ヶ月毎に活動状況報告書、ヒヤリハット事故報告等の報告をしている。外部評価については、評価後に報告している。			○	活動状況報告、ヒヤリハット報告、職員の異動等について報告している。外部評価結果や目標達成計画については、口頭での報告となっている。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	コロナ禍で会議は行っていないが、書面にて報告し意見や提案等を返信してもらっている。			◎	○	書面会議は、意見や感想を書いてもらえるようなくみをつくっている。自治会の方から、花いっぱい活動参加の提案があり、事業所でも参加して、その後の会議で活動の様子を報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日時は、毎回第2火曜日の13時半からと決めているが、現在は書面を送付している。				◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	行政に提出し、家族にも送付している。					
<b>IVより良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の"いつも笑顔でいきいきとじぶんらしく"は利用者、職員共日常的に取り組んでいる。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	1階、2階のよく見える場所に提示している。	○	△			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設内外で研修等に参加できるようにしているが、コロナ禍で中止になる事もある。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	少しずつスキルアップできるように職員間で話し合ったりして、コミュニケーションを図っている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況により給与水準を変えている。勤務年数、勤務時間による昇給等で職場環境の整備をしている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響により、他施設の推進会議の参加、相互研修等の参加はほとんどない。交流はないが、インターネットを活用した研修は行っている。					
e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	公休希望、有給の消化等、勤務の調整をしている。場合によっては、ストレスに対する相談も受けている	◎	○	○		代表者(施設長)、事務長等が、ほぼ毎日事業所において、いつでも相談したり、話し合ったりできる。職員の希望を聞き、勤務の調整を行っている。		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会議等において学習し理解している。マニュアルも作成しいつでも見られるようにしている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は職員と共に業務に入っており、コミュニケーションを図っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の観察や関わりの中で不適切な事があれば個別に注意をしている。				○	令和3年3月に虐待防止に関する外部研修を受講しており、ユニット会時に内容を伝達している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に声を掛けたり、話しやすい雰囲気づくりに努め話を聞いている体調が優れない時は休んでもらっている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に職員会議で説明し話し合っている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会議、ユニット会議で話し合っている。					
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	やむを得ず拘束しなければならない状況があれば、家族とよく話し合いを重ね理解してもらい、できるだけ拘束しないよう努めている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見制度を利用している利用者がある。職員は研修を受け理解している。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	制度を利用している利用者はいが今のところ利用を考えている方はいない。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要があればいつでも相談や依頼ができるようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	各種、マニュアルを作成している。職員がいつでももらえるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に出来ていないが、日常の中で実践したり、看護士に応急手当を聞いたりしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告書は速やかに記録し、職員間でよく話し合い対応等を検討して再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアの中で、気づきがあれば申し送り等で対策を検討し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成していて、いつでも見られるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば対策案を検討し家族に納得してもらえるような体制をとっている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常での会話から、利用者の話を聞くようにしている。			○	運営推進会議に参加する利用者は機会がある。日々の中で聞いており、バズルをする利用者から「もっと難しいものを」と要望があり、購入につなげた事例がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口については、契約時に説明を行い家族等には近況報告時の際に要望や、苦情等がないか聞くようにしている。	○		○	電話連絡の際などに聞いている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供は行ってない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	普段から職員とのコミュニケーションを取りいつでも聞く機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの意見や提案等を聴くように努めミーティング等で話し合い検討している。			○	管理者は日々、職員とケアにかかわりながら聴いている。また、管理者から声をかけて聴くようにしている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会議において説明理解している。				外部評価結果や目標達成計画については、運営推進会議時に、口頭で報告している。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	取り組み内容について話し合うようにしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	出来る範囲で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているがモニタリングの依頼はしていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	感染対策により推進会議の中止で報告出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成しいつでも見られるようにし、周知できている。				3月(設備業者立ちあい)と9月(利用者職員で)避難訓練を行っている。事業所の井戸水は、災害時に地域の人も使用できるようにしている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	昼間、夜間想定でそれぞれ訓練が行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	自治会長や近隣住民の方に支援体制をお願いしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	現在コロナ禍で出来てないが推進会議(書面)で自治会長から地区災害等の対応などのアドバイスを受けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーター養成講座を他施設の職員と協力し活動をしている。				入居相談等はあるが、他に相談支援を行うような取り組みは行っていない。  宇和島市の取り組みで、近くの職業訓練校で、認知症サポーター養成講座を他事業所と協力して実施することを継続している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設申し込み等の相談があれば状況をお聞きし対応している。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍により行えない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は、短期大学生の実習を受け入れていたが、閉校となり今は行ってない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連携は取れているが、コロナ禍でイベントも中止になったりして出来ていない。			○	